



## 横浜銀行 ロンドン駐在員事務所

週間トピックス(2017.12.22)

### 英国 ATM に見るキャッシュレス社会

- ▶ 英国では、銀行やスーパーの ATM のほとんどが手数料無料で現金を引き出すことができます。
- ▶ 12月20日付フィナンシャル・タイムズ紙は、英国の銀行が ATM 設置台数を減らしており、このままでは地方が「ATM (のない) 砂漠」となる恐れがある、と伝えています。
- ▶ 日本では、銀行・信用金庫・ゆうちょ銀行、そしてコンビニ型 ATM は全国に約 19 万台設置されていますが、英国は約 7 万台と、およそ 3 分の 1 しかありません。
- ▶ 英国では、現金決済の比率が 3 割以下と世界ではキャッシュレス時代が訪れようとする中、日本の ATM、そして決済手段のあり方も大きな転換点を迎えているのかもしれない。

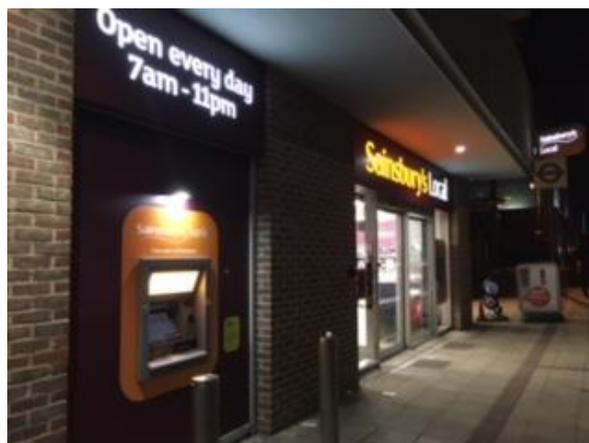
#### 1. 英国の ATM 事情

- ▶ 英国の銀行やスーパーマーケットに設置されている ATM はそのほとんどが手数料無料で現金を引き出すことができ、大変便利です。英国の ATM 決済システムを管理するリンク・スキーム・ホールディングス社 (Link Scheme Holdings、以下リンク社) の調べでは、英国の現金引き出し件数の 97% 以上は無料で取引されているそうです。
- ▶ 今回、リンク社が、銀行や独立系 ATM 事業者へ支払う 1 回あたりの手数料を、25 ペンス (約 38 円) から 20 ペンス (約 30 円) に引き下げる提案をしたため、独立系の ATM 事業者から、数千台の ATM を閉鎖しなければならない、消費者に手数料を請求しなければならないとの苦情が出ている、と 20 日付フィナンシャル・タイムズ紙は伝えています。

【NatWest 銀行内の ATM】



【英国大手スーパー Sainsbury's の ATM】



- ▶ 独立系 ATM 事業者とは、銀行以外の ATM 事業者で、主に銀行などのカード発行体からリンク社経由で利用手数料を受け取る事業者です。日本でいえばセブン銀行と似たビジネスモデルでしょうか。独立系 ATM 事業者全体の ATM 設置台数は約 4 万 2,600 台、英国全体の ATM 設置台数は約 7 万 300 台ですので、およそ 6 割の ATM は、銀行ではなく独立系 ATM 事業者が設置していることとなります (2017 年 6 月現在 リンク社 HP より)。

## 2. 日本との比較

- ▶ 一方で日本のATM設置台数は、全国銀行協会によれば銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行など合計で約13万6,800台（2016年9月時点）、これにセブン銀行などのコンビニ型約5万5,000台を加えると、約19万1,800台となり、英国の約2.7倍となります。
- ▶ コンビニ型ATMは増加していますが、それでもATM設置台数全体の28.7%と、英国の60%と比較しますと、まだ日本では銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行などの設置台数が勝っています。



## 3. まとめ

- ▶ 英国では、過去3年間に銀行が約6,000台のATMを閉鎖する一方、独立系ATM事業者は10,000台以上を設置してATMのない「砂漠」地帯を回避しています。
- ▶ 日本と英国では、ATM設置台数、銀行系と独立系の設置比率は大きく異なりますが、日本では現金決済比率が6割を超えますが、英国では3割以下であることが大きな要因であると考えられます。
- ▶ 世界中で拡大するキャッシュレス社会、日本も大きな転換点を迎えているのかもしれませんが。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。  
ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。  
本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。  
本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。  
本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。